



1月27日から2月7日までの12日間、第27回高校生による海外エネルギー事情研修会に参加させていただきました。日本ではできない様々な体験をすることができ、自分自身を成長させてくれる非常に有意義な研修になりました。携わってくださった全ての方々に心から感謝しています。

本研修に参加する前、私は原子力発電は僅かな燃料で膨大な電力を発電できる反面、福島原発事故のように深刻な事故を起こしうるという危険性も持ち合わせる、メリットとデメリットが紙一重の発電方法だと思っていました。また、原子力発電が国内発電量の約70%を占めているフランスや、約40%を占めているスウェーデンの方々がなぜ原子力発電を肯定的に受け止められているのか疑問に思っていました。

しかし、10月15日と16日まで行われた第1回研修会、1月4日から6日まで行われた第2回研修会、そして海外研修本番を終えた今はスウェーデンやフランスなどの地盤が安定した地域にとって原子力発電がとても合理的な発電方法になりうる理由が理解できました。なぜなら地盤の安定した地域では地震による事故が起きる可能性が極めて低く、原子力発電のメリットを存分に利用することができるからです。原子力発電はウラン1gで石炭3t分もの電力を発電をできたり、温室効果ガスを排出しなかったりと、環境に優しい発電方法であると考えられています。現地の高校生のプレゼンによると、スウェーデンとフランスの両国とも国全体でカーボンニュートラルを目指しているそうです。この目標にも原子力発電はとても合致しています。また、今回訪問させていただいたKSUでは原子力発電所が安全に操業されるように従業員が訓練を受けており、安全面もかなり確保されているという印象でした。

しかし日本は、フランスやスウェーデンと違い、地震が多い国です。やはり地震が多いと地盤が安定した国々に比べて大規模な事故が起こる確率が高まりますし、安全性の確保のためにより細心の注意が必要となります。そのため、発電技術や使用済み核燃料のリサイクル技術について原子力発電先進国であるフランスやスウェーデンから学ぶことができる点は多いですが、地震への対応は他国に頼らずに日本独自で考えなければいけない課題となっています。現在、日本では原子力発電所の建設基準を厳しくするなどの対策がなされていますが、本当に安心して原子力発電を受け止めてもらうためにはまだまだ国民の理解を得ていく必要があると思います。

また、原子力発電についてどの国にも共通している課題があります。それは使用済み核燃料の処理をどうするかという課題です。使用済み核燃料は有害な放射線を多く含んでおり、放射能レベルが天然のウラン鉱物と同等の状態まで下がるまでに約10万年かかると言われています。現在の私たちが作り出したゴミを10万年先の人々にまで押し付ける訳にはいかないため、人の手による管理が不要な使用済み核燃料貯蔵施設を自分たちの世代のうちに完成させる必要性が高まっています。

スウェーデンでは高レベル放射性廃棄物の最終処分場が建設予定です。既存の全ての原子炉が発電運転を終了するまでに発生する使用済燃料量(ウラン約12000トン相当)を地下約500mの深さで処分する計画だそうです。フランスでは使用済核燃料を減らすために使用済核燃料のリサイクルが行われています。

フランス国内で出た使用済核燃料だけでなく、日本を含む国々から出た使用済核燃料もリサイクルし、その使用済核燃料が発生した国に返却しています。廃棄場の建設予定地は概ね決まっているようで、これからどのように建設・運用されていくのか注目されています。

エネルギーや原子力発電については様々な課題がありますが、私はこの使用済核燃料の廃棄方法に関する課題は最も早急に解決する必要があると感じました。

現地の高校生との交流会の中で最も印象的だったのは、現地の高校生は日本の高校生よりも自分の意見を強く持っていて、さらにそれらを表現する力もあるということです。次々と手を挙げて自分の意見を発表するという日本の学校ではあまり見られない様子に衝撃を受けました。また、それぞれの国の文化を教えてもらう中で、日本文化との違いだけではなくフランスとスウェーデンの2国間でも文化の違いを実感することができて楽しかったです。

スウェーデンの高校生は、私たちのプレゼンや文化紹介にとっても興味を持ってきて、「なぜそうなるの?」「それは何?」と沢山質問してくれました。こちらが拙い英語で話しかけても、何を言いたいのか一生懸命汲み取ろうとしてくれて本当に助けられました。また、スウェーデンの高校生は外見的にも内面的にも成熟していて、まるで大学生と会話しているような感覚でした。初めは少し緊張しましたが、学校見学や寮見学を通して心の距離を縮めることができ嬉しかったです。

フランスの高校生は一人ひとりが原子力発電について自分自身の意見を持っていて圧倒されました。プレゼンの中の細かい点についても質問してくれるなど、意欲的にディスカッションに参加してくれました。私も含め原子力発電や自国のエネルギー事情についての知識や関心がない日本の高校生が多い中で、こんなにも自国の現状を知っていて、さらに自分の意見まで持っているのは素敵だと思いました。そして何よりも日本のマンガやアニメの知名度が高くて驚きました。私たちも知らないようなアニメを観ている人や、少し昔に流行したマンガを読んでいる人もいて、現地での日本人気に圧倒されました。

人が多い空間で自分の意見を言うのが苦手な私にとって、自ら手を挙げて自分の考えを発信している現地の高校生たちの姿は本当に刺激的でした。その姿を見て自分も自己表現を頑張ろうと思い、現地の高校生に声をかける勇気をもらうことができました。現地の高校生は英語がほとんど完璧に話せるのですがこちらはまだまだ

---

不慣れな英語だったこともあり、伝えたいことがどうしても伝わらない場面が何度もありました。それでも、他の言葉に言い換えたりしながら諦めずにコミュニケーションを取りました。英語でのコミュニケーションだったからこそ物怖じせずに話せたのかもしれませんが。最終的には別れるのが惜しいほど仲を深めることができ、改めて貴重な時間を過ごさせていただいたなと思いました。これからは日本語でももう少し自分の考えを言語化していけるように努力していきたいです。

今回は本当に貴重な経験をさせていただきました。この研修に参加させていただいた青森県商工会議所連合会の皆様、学校の先生、家族への感謝を忘れずに、研修を通して吸収した様々なことを自分の将来に繋げていけるようにこれからも励んでいきます。素晴らしい機会をありがとうございました。

